

7 研究活動と研究環境

大学院工学研究科における継続的な研究活動の目標値は、「福岡工業大学大学院担当教員資格審査基準および資格審査維持申し合わせ」の中に以下のように定められている。博士後期課程のD合教員の資格維持については「担当する専門分野に関連する学術論文(査読付き)又は学術著書(教科書を除く)を最近5年間に2編(冊)以上発表していること」、D合教員の資格維持については「担当する専門分野に関連する学術論文(査読付き)又は学術著書(教科書を除く)を最近7年間に2編(冊)以上発表していること」となっている。また、修士課程のM合教員の資格維持については「担当する専門分野に関連する学術論文(査読付き)又は学術著書(教科書を除く)を最近5年間に1編(冊)以上発表していること」、M合教員の資格維持については「担当する専門分野に関連する学術論文(査読付き)又は学術著書(教科書を除く)を最近7年間に1編(冊)以上発表していること」となっている。これらの継続的な研究活動の目標値を維持することが出来ない教員は各大学院担当教員資格を喪失することとなる。この基準は必ずしも厳しいものではないが、各教員がこの基準を維持することで、大学院における教育・研究の質が一定レベル以上に保たれる。M合教員の資格維持のためには少なくとも年間0.2編以上、博士後期課程のD合教員の資格維持のためには少なくとも年間0.4編以上の査読付き論文を公表する程度の研究活動を継続的に行う必要がある。

なお、大学の工学部、情報工学部および社会環境学部においては、現在のところ継続的な研究活動の目標値は定められていない。

(一) 学部・大学院の研究活動

(1) 研究活動

(イ) 論文等研究成果の発表状況

表 7-1 は工学部、情報工学部および社会環境学部における学科別の査読付き論文発表状況(平成9年度～平成15年度)を示している。電子情報工学科では平成10～12年度の間で教員一人あたりの年間論文発表件数は1編を越えて研究が活発な時期があったが、最近では再び年間論文発表件数は減少傾向にある。ついで情報通信工学科において、教員一人あたりの年間論文発表件数が0.8編程度であり、研究がかなり活発に行われている。残りの学科においてはこの値が0.5前後またはそれ以下であり、本学においては教員の査読付き論文による研究成果の発表状況は決して活発であるとは言えない。社会環境学科では統計データが少ないが、やはり教員の研究成果発表状況は芳しくない。